

平成26年度第4回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：「職場で女性が輝くために」
- 2 日時：平成26年10月9日（木）14：30～16：10
- 3 場所：岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館6階
岡山県男女共同参画推進センター会議室
- 4 参加者：「働く女性のステップアップ事業」関係者：7名
- 5 知事挨拶

「職場での女性の活躍」の現状と、「職場で女性が輝くために」どのようなことをすればうまくいくか、現場での話や皆さんのアイデアを聞いて、県の施策に生かしていきたい。今日は皆さんが思っていることを素直にお話したい。

6 発言内容等

- ・ 仕事か結婚かを選ばなければならず悩んだ時期がある。交際相手と仕事に対する考え方が違い、結婚はやめざるを得なかった。
- ・ 会社では、男性で育児休暇を実際にとっている人もいるが、なかなか周囲に受け入れられない。こうした状況を変えていくには、女性が積極的に関わることが必要であると感じる。
- ・ 男性と女性では得意な分野がそれぞれ違うということを踏まえて、周りの職員が接してくれて助かった。
- ・ 後輩に伝えたいアドバイスは、まずは仲間を大切にしていくこと。悲観的にならずに思い描いた自分の理想の方向に進んでいくこと。当時は悩んでいても、たいしたことではないと思える時が来るので、ある程度考えたら、前向きに努力すること。また、自分ひとりでは何もできないので、片意地を張らずに助けてもらうこと。
- ・ 管理職になるとマネジメントは負担になるが、部下にうまく動いてもらうことで柔軟な働き方ができると女性社員に話している。
- ・ 消費税増税後の業績の厳しい状況を打破するためには、何か新しいことをしなければいけないということで、女性管理職を推進リーダーにして、男性も女性も関係なく働きやすい職場づくりに取り組んでいる。
- ・ 管理職になりたくないと言っている女性を、初めて県の研修や外部の研修に行かせ始めた。外部の研修で刺激を受け、なっても良いという人の中から女性管理職を増やしてきたところ、次は私もといたつながりが出てきた。若い人たちの気持ちも少しずつ変化してきている。
- ・ 当社でも、管理職になりたくないという女性が多い。理由は、家庭との両立というよりは、他の女性との関係を気にする人が多い。
- ・ 管理職になることを途中で諦めてしまう人も多いと思うが、実際に管理職として成功している人の話をいろいろな所で聞く機会があることは大切だと思う。
- ・ 自分の会社だけでなく、外を見ることは非常に良いことだと思うが、岡山ではあまりこのような講座がないので、こういった機会をたくさん作ってほしい。
- ・ 管理職だけに焦点を当てるのではなく、専門職を含め、それぞれが自分の職場の中で生き生きと働くにはどうしたら良いかということも考えるべきだ。
- ・ 女性の働き方は多様化しており、短時間でも働くことが本人に合っていて、楽しいことで

あり、輝くことにつながるのであれば、必ずしも管理職だけを目標にする必要はないのではないかと思う。

- 子育ては、私たちの将来を支えてくれる人を育てることだと認識できるようなCMが流れるとか、女性が自分のライフプランに合った働き方ができるようになっていくということと同じ女性に対して啓発するなどしてほしい。
- 女性は物事を決められないと言われることがあるが、それは経験がないからだと思う。今日出席しているような方たちが活躍すると女性の地位も上がってくると感じた。

7 知事のまとめ

- 組織では、自分より権限をもっている人に相談相手や味方となってくれる人がいると強い。女性の上司がいれば一番良いが、いない場合は、男性の中で理解のある人を見つけ、相談することが大事である。
- 女性が子育てをしながら仕事をしていると、会議に遅れるといったことなどが増えると思う。しかし、会社が、発表の順番を変える等の配慮をしたり、そのようなことはたいしたことではないと捉えるようになれば、働きやすさが随分違ってくるのではないかと思う。
- 無理矢理ではなく、自然に女性が管理職になれることが大事なことである。いかにして良い人選をし、その人を管理職として育てていくかが、後輩のためにも大事である。
- 男性から見ると、こんなことで困っていたのかというようなことでも、女性は心理的に負担に感じていたりするので、男女で感じることや得意分野が違うということを皆で理解できると良い。
- 控えめで謙虚な人が多い女性の場合、1週間でも管理職を体験させることで、意外と作業だけはできるという自信につながるかもしれない。管理職となると人心掌握のところが大きくなり、実際には作業だけではないが、作業の段階で怖じ気づいていたら何もできない。
- 女性を管理職にうまく登用している事例を参考にしたり、研修等を通じて、お互いの会社のやり方を紹介するなどの工夫を重ねて、10年後に振り返った時、随分女性管理職が増えたなという状況にしたい。
- 女性というだけで、仕事をとるか、個人の幸せをとるかといった、男性がしなくても良い残念な選択を迫られることがないようにしたい。工夫や努力で、両方を目標にできるようにしていきたい。
- 女性の活躍を推進するには、1回や2回のセミナー開催や、このような意見交換をするだけでは十分ではないが、1つ1つの積み重ねが大切だと思うので、皆さんにはぜひ頑張ってください。